

先人たちの声

北九州モデル導入の**実際**を聞きました

社会福祉法人本城会 特別養護老人ホーム

もみじ苑

入所74名/短期入所12名
北九州市八幡西区藤原4-15-33

平成8年6月に開設。「自立支援」の視点に基づき利用者の力を引き出す支援に力を入れている。また地域や家庭との結びつきを重視した取組を行っている。



北九州モデル導入の主な取組内容

項目	記録	職員間コミュニケーション	入浴
問題・課題	紙記録が多く転記があり、記録に時間がかかる	看護師に内容を言わず呼んでいたため、処置が必要な場合、再び医務室へ戻ることがある	入浴介助時、職員の身体的負担が大きい
取組	記録の仕方や内容を見直し、PCに加えスマートフォンでの記録を導入	看護師を呼ぶ際、具体的な内容や状況を伝えるようにルール化した	利用者の身体機能別に入浴日や順番を改め、特殊浴槽の修理やシャワーチェアの入替えを実施
効果	職員一人当たりの記録時間が20分/日短縮した	職員意識が変容し、コミュニケーションが増え、 不要な手戻りがなくなった。	入浴業務の 負担感が3割軽減した

1 北九州モデルに取り組もうと思ったきっかけは？

現場の負担が増えていたため、生産性向上に向けた取組を進めなければと考えていました。しかし、自分たちだけでは動き出すことができず、**何か良いきっかけはないかと模索**していました。そんな折、北九州モデルの話があり、これは**絶好のチャンス**と思い、取組に参加することにしました。

4 今回の取組で役に立ったことは？

現場の意見(声)を引き出すことができ、業務内容だけでなく、使用物品など物的環境についても、より**具体的な課題**が分かり、**効果のある取組につなげることができました**。また、今まで仕方がないと諦めていたことでも、**見直すこと**によって改善できるのだと分かり、**業務改善に対して現場の意欲を高めることができました**。

2 職員との合意形成はどのように行いましたか？

まずは**現場を引っ張っていけるプロジェクトメンバーを多職種の職員から選出し**、取り組む意義や施設が目指す姿を共有していききました。そして、その**プロジェクトメンバーを中心に**現場職員一人一人へ、取り組む目的や具体的な取組内容を伝えていき、合意形成を図りました。

5 新たな取組など、今後の方針は？

インカムの導入とスマートフォンの活用定着を図り、間接業務の効率化を図っていく予定です。また、利用者の健康状態や生活リズムに応じて、**食事のタイミングや入浴方法をより柔軟に見直すこと**も予定しています。また、今回は1つのフロアを対象として業務改善を実施しましたが、**今後は施設全体に展開**していきます。

3 取組にあたり壁になったことは？

日々の業務に追われる中での業務量調査や、**これまでのやり方を変える新たな取組**に対して、開始当初は**抵抗感**を示す職員がいました。そこで、**現場の声に耳を傾け尊重しながら取組を進めたところ**、現場職員も**安心してその流れに乗ることができ、徐々にまとま**っていききました。

6 これから取り組む施設へのアドバイスを！

自分の施設はできるだろうかと不安や心配になることもあるかと思いますが、職員は皆、**やり遂げる「力」を必ず持っています**。それを信じて、是非ともチャレンジしていただければと思います。**今こそはじめる時期**です。そして、**各取組にきちんと期間を設けること**で、頓挫せずに進めることができると思いますので、**頑張っ**て取り組んでいってください。